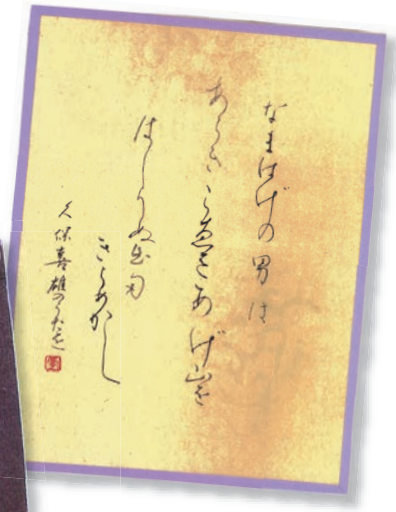
岩手郡医報

高橋　孝先生 書



岩 手 郡 医 師 会

No.95／2010年10月

目　次
CONTENTS

巻頭言　岩手郡医師会　会長　及　川　忠　人…… 1

総会議事録　平成22年度第１回岩手郡医師会通常総会…… 2

総務会議事録 …… 9

役員会議事録 …… 10

監事会議事録 …… 12

第62回岩手県医師会親睦野球大会報告 …… 13

岩手県医師会だより …… 15

各種行事報告 …… 16

ＴＯＰＩＣＳ …… 18

平成22年度岩手郡医師会社会保険医療担当者研修会報告 …… 19

平成22年度岩手郡救急医療対策協議会報告 …… 20

表紙切り絵　高橋　孝

なまはげの男は
あらきこゑをあげ山を
はしりぬ　出刃
きらめかし
久保喜雄のうたを

巻　頭　言

医学倫理と医療崩壊

社団法人岩手郡医師会　会　長　　及　川　忠　人

医療崩壊という内容に関する記事やマスコミ報道がなされない日がないほど、医療崩壊の波は我々の現場に大きな影響を与えております。我が岩手郡医師会の活動の中においても医師不足ならびに看護師不足による医療機能不全に至る等の様々な課題が山積しております。しかしながら医療崩壊を如何に避けるかを検討する前に、我々の足下を見直すため、地域医療の現場で「倫理観・職業観」を再吟味することが重要と思われます。

小生は昭和40年に岩手医科大学教養部医学進学課程に入学し、一般教養という教育過程の中で、客員教授のパウロ・ベルナルデイ先生からラテン語の手ほどきを受けました。そしてベルナルデイ先生が著作した､「医学と倫理」（篠田糺学長訳）の教科書を用いた「医学倫理」の講義が学部３年から４年生の時に行われております。ベルナルデイ先生はこの著作で医学倫理の「根本原理」を説明しその中で「ヒポクラテス全書」に言及しています。

すなわち、ヒポクラテス全書の冊子に共通している第一の特徴は、ギリシャ自然哲学的思考の影響をうけた合理性であり、第二は高度の職業観をあげ、さらに第三の特徴は高貴な人間性を挙げております。加えて医師の診療の実際に必要な良心的忠実、責任感、患者への同情、その他の徳目はすべてヒポクラテス全書に述べられていると記載されております。このヒポクラテス全書の主旨を体した「ヒポクラテスの誓い」が欧米諸国の医学校卒業時に宣誓される伝統が今でも継続され、国際的にその内容が信奉されております。

ベルナルデイ先生の講義の最初の言葉に「ergo sum（わたしは在る）」と突然お話になり、それに驚き、また「bonus（良いこと）」の文法上の活用を教えて下さったことが懐かしく想い出されます。ラテン語言語学の基礎的内容に加えて、医学倫理の授業も大変レベルの高いもので、必ず英語のレジメを手わたしする講義で、気分転換にドイツ民謡を教え、ドイツ民謡を原語で合唱しりした楽しく、人間性の豊かさに溢れるユニークな講義でありました。

これらの医学生時代における医学倫理の学びを振り返り、母校の篠田糺学長の高邁な見識と卓越した指導力が時代を超えて迫ってくるような気が致します。また当時、学園紛争が全国に波及している社会状況の中で、学生への指導力と愛情が豊かで素晴らしい篠田糺学長先生との懐かしい想い出が沢山あり、恵まれた教育環境に今でも感謝で一杯です。

さて、我々は医療崩壊という事実を真摯に受け止め、「医療」は宇沢弘文先生が言われるように「社会的共通資本」であり、その基本的考え方として、「経済に医療をあわせるのではなく医療に経済をあわせるべきである」との主張に賛成であり、医療が経済市場主義をあてはめるべきものではないことは真理・真実であると思います。今後の超高齢社会では医療に対する財源の確保が最も重要であり、国民への衆知・啓発が必要であります。

また、そのために我々が医師としての職業倫理を確固たるものとして、国民の信頼を勝ち取ることが、医療崩壊を避けるための大切な責務の第一であり、これらの課題の再吟味が求められています。荒んだ世相の激動の時代ですが、諸先生方のさらなる郡医師会活動へのご支援ご協力をお願い申し上げまして巻頭言に替える次第です。

総　会　議　事　録

平成22年度 第１回岩手郡医師会通常総会

招集通知日：平成22年６月１日㈫
日　　時：平成22年６月26日㈯
　　16時00分～
場　　所：盛岡市菜園２－６－１
　　ホテルニューカリーナ
　　２階マーブル
総 会 員 数：90名
出席会員数：31名
委任出席数：46名
司　　会：理　事　紺野敏昭
開　　会：副会長　篠村達雅
議　　長：　　飯島　仁
議事録署名人：吉田雅美、山田わか子
閉 会 挨 拶：副会長　久保谷康夫

会長挨拶要旨

岩手郡医師会長　及川　忠人

本日は土曜日のご多用なところ、岩手郡医師会通常総会にお集まり頂き、心から感謝申し上げます。平成22年度も早くも約３ヶ月も過ぎ、新年度社会保険診療報酬の改定から３ヶ月を経過した中での経営的状況は未だ不明ですが、病院では少しく単価が上がったために安堵の声があることの事実のようであります。しかしながら診療所では逆に初診料の減額等の影響があり診療所にとっては大変厳しいスタートになり経営への影響が少ないことを願うのみでございます。

地域医療崩壊の現状を申し上げますと昨年度から引き続き新年度にはいっても岩手郡医師会内での地域医療を支える先生方の減少に歯止めが掛からないのが現実であります。特にそれぞれの地域で医師不足は依然として最大の課題であります。それに加えて各医療機関における看護師の不足が大きな影をなげかけております。それらの要因が、医療機関の病棟機能不全に拍車をかける状態で、病院・診療所の経営悪化を後追いをかけていると思われます。

この平成22年度岩手郡医師会第１回通常総会は平成21年度の決算と事業報告のご承認がメインであり、また１月30日の通常総会後の様々な活動の医師会活動前半の行事のつめがあります。多くの地域医療への対応等の課題を抱えた医師会活動ですが、それぞれの活動計画分担別にしっかりと進めることが必要であると思われます。それぞれのテーマに沿って活動を多くの会員を合わせて共同して勧めることも大切ではないかと思われます。またそれらの業務分担については、過日に郵送されました郡医師会会報を参考にして、それぞれのご活動へのご支援とご協力を宜しくお願い申し上げます。

最も大きな課題として先ほど申し上げましたが、岩手郡医師会管内においても医師不足が顕在化してきております。中々打つ手が無いのが実情であり、医師会の運営上最も重要な課題であるとおもっておりま

す。そのような流れの中で、当医師会は５市町村に亘る広大な面積と、会員相互の情報の共有化が取りにくい現状にあり常々反省しております。そのような課題をどのように解決して行くべきかを考えて、いくつかの先進地区の情報共有化のネットワークの視察等をなるべく早く実現して、これからの岩手郡医師会の情報共有のネットワークのあり方を検討して参りたいと思います。これらの基礎資料および参考とするために、役員会にて協議しこの総会でもご了承を得て、コンプユーター化等の基礎資料としてのアンケート調査を実施したいと思いますので、宜しくご協力をお願い申し上げます。

昨年の救急医療の中で、特に新型インフルエンザ対策では各町村の医師会会員の諸先生方には、多大な御支援ご協力を頂きました。３月の下旬に県央保健所長を経由して、インフルエンザ対策への対応に対して、岩手県知事から感謝状を頂いております。このことは、特に滝沢村における臨時輪番体制の二重化等の適切な対応等各地域の諸先生方の活動が、新型インフルエンザへの大きな地域防疫に繋がったこと、何回も拡大総務会等で県央保健所と各地域医師会会員相互の連絡体制を密に確保出来たこと等の医師会会員相互の協業のチームワークに対しての感謝状ではないかと、内心ほっとしております。この場をお借りしまして新型インフルエンザ対策への御支援と御協力に重ねて感謝申し上げたいと存じます。沢山の課題を抱えた、医師会活動を何とか諸先生方の御支援ご協力により進めて参りたいと思いますので、尚一層の御支援、ご協力をお願い致します。

尚、本日は２年前に地震のため中断せざるを得なかった特別講演を再度依頼申し上げたところ、東北大学教授の出江紳一先生

に特別講演を頂くことになりました。ともかくも二年経過しておりますが、ようやく今回、出江先生のご講演が実現することになり、こんな嬉しいことはありません。超ご多忙の中に御来盛を頂き、ご講演のご準備をして頂きましたことを心から感謝申し上げまして、通常総会の岩手郡医師会長としての挨拶に替える次第であります。

■■■■ 活　動　報　告 ■■■■

議長が担当部会活動報告を求め、高橋邦尚副会長と及川会長から平成21年度担当部会活動の報告があった。

①総務

総務は、今年度はインフルエンザ対策を中心としまして、臨時総務会を２回、拡大総務会を１回、合計９回開かれています。

②地域医療

地域医療ですけども、滝沢での例を取りますと、特定健診について今年はさほどの混乱もなく、予防医学協会と契約を行いました。ほぼ昨年と内容は同様ですけども、来年度以降の健診率のアップが行政から要求があり、それが次の課題となると思います。

④産業医

産業保険については、秋に計画していますが詳しいことは決まっておりません。

⑤学校保健

学校保健は山口先生からご報告があります、大きくは事業計画の対応ですが、健全な子どもの育ちへの啓発とのことのようです。山口先生は本年度から岩手県医師会においても学校保健の担当となりご活躍いただいております。主な行事としましては９月４日に山形市で東北学校保健学校医大会、11月には群馬県で全国学校保健学校医大会、11月には岩手県学校保健学校医大会がおのおの開催される予定であります。

⑥勤務医

勤務医部会は、高橋明先生からご報告があります、22年度の事業計画につきましては、第115回勤務医部会の幹事会が開催されまして、それについて話してくださいとのことでした、事業計画は五つありまして１）医療連携の強化及び医療機能分担の推進　２）新医師臨床研修医制度への積極的対応　３）勤務医に魅力ある医師会作りと加入促進　４）勤務医の労働衛生環境の向上　５）勤務医の医政への積極参加、以上です。

⑦広報

広報につきましては、今年の目標としましては年に２回の発行で、山口先生からのご提案で、編集長は持ち回りでやったらどうかということでした、第１回目は重要事項の議事録が中心となりますので、紺野先生にお願いしており、以後、編集長を持ち回りで編集をさせていただくことになります。ここで、過日ご送付した岩手郡医報の訂正ですが、18ページのトピックスで高橋牧之介先生の字が誤っており大変申し訳ございませんでした、それから一番最後の会員の入会・退会・異動の件ですが、杉本圭士郎先生の異動後が老健ヴィラ加賀野となっておりますが、滝沢中央病院の間違いでございました、後日訂正のものをお送りしますので、ご訂正をお願いします。

⑧生涯教育

生涯教育は、先日の理事会で土井尻先生からご提案がございまして、単位取得のシステムをもっと簡単にやって、会に参加したら自動的に単位を取得できるシステムを、かつて日本医師会からの小雑誌で発表があったんだが、よくわからないのできちんと調べて報告してくれとのことで、これはまだ医師会からも細かいことがありませんで、県の会議でも７月にそのことについての詳しい会議があるようです、それについても何らかの方法でご報告しますのでよろしくお願いします。

⑨健康教育

健康教育は、本年度は岩手町で11月頃に町民健康講座として予定しておりますが、詳細はまだ決まっておりません。

⑩診療所

診療所部会は、７月に診療所部会の会議

予定がありまして、主なものは県の有床診療所部会、それから同じく県の診療所部会というのがありましておのおの会議が開催予定であります。

以下の報告が及川忠人会長よりあった。

③医療保険

医療保険は、５月18日に社会保険医療担当者指導方針打ち合わせ会が、東北厚生局、岩手県、県医師会の合同であったそうです、その報告が６月５日の医師連盟執行委員会のときにありました、指導の仕方をみると岩手郡の件数を見ますと平成19年は個別指導が３件、平成20年は２件、平成21年が７件と推移しているわけですが、その中身の指導形態が集団的個別指導と、個別指導、新規開業の場合の個別指導とあるんですが、それが今回大きく様変わりするようです、今回からは集団的個別指導はなくなり、一同に集めて２時間、今回は46医療機関あるそうです、岩手郡医師会は２件あるようですが、まだどこになるかはわかりません、個別指導について岩手郡はないようですけども、これからどのように変わるかということなんですけども、診療所は２時間でカルテ30件、病院は３時間でカルテ30件を見るということに変わるようです。いままでは、理由が例えば点数が平均よりも高いということでしたが、選定理由は一切公開しないことになったようです。３月20日に診療報酬改定の説明会が最初は集団的個別指導ではないということだったんですが、後になってからそれは集団的個別指導だということになったり、政権交代してからいろんな枠組みがいままでとは違うことがでてきました、それで診療報酬説明会をやはり各郡市医師会で開催して、希望する医師会は申し込んで下さいと県医師会から言われております、一応、７月の下旬から８月の初めにかけて県医師会館の４階ホールが空いている日を候補として挙げて、県のほうに申し込んでおります、決定次第お知らせしますが、それは集団的個別指導ではないということのようですが、個別に郡市医師会がやってほしいと、県の医師会では公に全部では実施しないとの説明でした、ですから今回からいままでのやり方から様変わりするようですので、注意が必要と思います、集団的個別指導の実施期間は９月から10月の間、個別指導は９月から平成23年の２月まで、新規開業個別指導は７月からということです、保険問題研修会実施時期これが申し込んで実施するものですが、今、岩手県医師会のほうに三つ時期を決めて申込中です、決定次第お知らせします。

⑪医師連盟

医師連盟ですが、臨時代議員会が６月19日に開催されまして、定例の平成21年度の２月27日開催の定例代議員会以降のさまざまなことがだされました、あまり大きな内容はありませんでしたが、看護の医療機関が減少してきてそれに対しての対応が問題ではないかということで、開業医の先生が非常にお困りではないかとの質問がありました、今回、日本医師会の原中会長ということで民主党にパイプの強い方がなったわけです、その後の日本医師連盟の対応がなかなか決まらなかったということでございます、資料10を見ていただきたいのですが、県の医師連盟でも３回ほど会合がありまして、少なくとも岩手選挙区に関しては全部の郡市医師会が自主投票という形になりました、日本医師会は安藤さんを推薦とし、自民党の西島さんは支援、みんなの党の清水さんも支援ということに決めたよう

です、政権与党の候補は推薦ほかの２名は支援と日本医師連盟の方向は決まっております。

活動報告全体について、議長が質問を糺したが、特に質問・意見はなかった。

■■■■■■ 議　　事 ■■■■■■

続いて議長は議事に入った。

第１号議案　平成21年度岩手郡医師会一般会計決算（案）について

第２号議案　平成21年度岩手郡医師会休祭日当番医会計決算（案）について

第３号議案　平成21年度岩手郡医師会特別会計決算（案）について

議長より、第１号議案、第２号議案、第３号議案は、一括して上程する旨説明があった。

続いて、高橋邦尚副会長より、別紙資料２から４に基づき説明があった。

決算案について、議長が質問を糺したところ、特に質問はなかった。

ついで、西島康之監事より、５月26日に会長・副会長、私と北上先生が参加しまして、会長と事務職員から説明を受けましたが、資料８のとおり、社団法人岩手郡医師会の平成21年度の業務および財産の現況について、会計帳簿および書類の閲覧により妥当であると認める旨、監査報告がなされた。

第１号議案および第２号議案並びに第３号議案について、議長がこれを諮ったところ、全員異議なく、原案通り満場一致をもって、承認し可決された。

■■■■ 報　告　事　項 ■■■■

①第164回岩手県医師会臨時代議員会（6/19）

及川会長から資料9に基づき説明があった。

色々ありましたが特徴的なことは、今回、医療安全・感染症危機管理という部門が新設されました、インフルエンザとか新型インフルエンザとか様々な危機管理を一手に引き受ける部門が新設されたということで、ほかはそんなに大きな違いはありませんでしたし、議事の岩手県医師会の決算は、黒字基調の決算で順調に推移しているとのことでした。

②岩手県医師連盟代表者会（6/19）

及川会長から資料10－１から10－５に基づき説明があった。

いろいろありましたが、岩手郡医師会としては自主投票とする旨報告をしました。ほかの医師会もほとんどが自主投票とするようです。

報告事項①、②について、何か質問等があるか議長が糺したところ、なんら発言はなかった。

③第62回岩手県医師会親睦野球大会参加について

久保谷康夫理事より、別紙資料11－２から11－６に基づき報告があった。

今年は、北上医師会担当で開催されますが、野球は９名で行うスポーツなのですが、当岩手郡医師会は選手集めに苦労しております、皆さんふるってご参加くださいますようお願いします。岩手郡医師会の表彰選手は、35年表彰で佐々木久夫先生と、篠村達雅先生が表彰されることとなっております。

④ＩＴに関するアンケート用紙・書式について

及川忠人会長より、別紙資料12－１から12－７に基づき説明・報告があった。

本日議長をお勤めいただいている飯島先生からも、ＩＴ化について従前よりご意見いただいているところでありますが、岩手郡医師会の情報共有化を検討する時期に来ているのではないかと思い、また、役員の中でネットを作ろうという動きもありますが、今後の基礎資料とするために、ご面倒をおかけしますが主旨をご了解賜りご協力下さいますようお願い申し上げます。

報告事項③、④について、何か質問等があるか議長が糺したところ、なんら発言はなかった。

⑤その他

１）明日、６月27日の10時から久慈市において、岩手県医師会の春季総会がありますので、出席できる方は積極的に参加願いたい旨、議長より報告があった。

及川会長より、この春季総会は岩手県医師会と各郡市医師会が交互に主催するもので、来年は岩手県医師会主催で開催され、再来年の2012年の６月頃に岩手郡医師会が担当することとなっておりますので、運営の仕方を見るためにも多くの参加をお願いしたい旨、追加報告があった。

以上議事・報告事項を終了

17時00分　久保谷康夫理事が閉会を宣言した。

■■■■■■■■■ 特　別　講　演 ■■■■■■■■■

■日時／平成22年6月26日㈯　17：00～

■場所／ホテルニューカリーナ　２階マーブル

演題：「リハビリテーション医学の面白さ
―未来志向の科学―」

講師：東北大学大学院医工学研究科
リハビリテーション医工学分野
教授　**出江　紳一** 先生

１．はじめに

リハビリテーションは病気や外傷が発生した直後から、あるいは障害の発生が予測された時から開始される医療です。運動療法や物理療法などの技術を、最適な時期に必要な期間提供するシステムであり、介入は当事者個人だけでなく地域にも及びます。また多くの専門職種が関わることも特徴です。

生体が発揮する機能にはその基盤となる構造があり、機能-構造連関と呼ばれます。この機能-構造連関は、個体の「活動」によって影響を受けます。廃用症候群や片麻痺に対するいわゆるCI療法で扱われるlearned

nonuse（学習された不使用）はその例です。リハビリテーション医療では「活動」を促進することで機能、ひいては構造を改善することを目標とします。そして機能、構造が改善することで活動が促進されることになります。

２．中枢神経系の可塑的変化を誘導する経頭蓋磁気刺激

経頭蓋磁気刺激は、経皮的に脳表面をパルス電流で刺激する技術です。反復刺激により、一定期間持続する中枢神経系の機能的変化を起すことが可能です。運動野を刺激することにより脳卒中後の片麻痺の回復を促進したり、頭頂葉を刺激することにより半側空間無視を軽減したりすることが臨床現場でも行われるようになりました。片麻痺の治療で大切なのは、刺激するだけではなく運動療法を併用して可塑的変化を望む方向に誘導することです。つまり活動と機能-構造との連関が重要です。

３．コーチング：ヒトの活動を促進するコミュニケーション

コーチングは相手の自発的な活動を促進するコミュニケーションです。リハビリテーション医療においては、患者さんが希望する状態を明確にし、動機付けを支援することが求められ、また多職種のチームワークが必要です。そこで私たちはコーチングがリハビリテーション医療に役に立つのではないかと考え、脊髄小脳変性症患者へのコーチング介入、脳卒中診療医へのコーチング研修、研修指導医へのコーチング研修などの効果に関する実証研究を行い、コーチングの有効性と限界を明らかにしてきました。現在は医療安全の促進に組織へのコーチングの導入が寄与するかどうかを検討する事業を行っています。

４．おわりに

リハビリテーションはヒトの活動を通して現状を変える営みです。目指す帰結は人それぞれであり、その多様性を保証することが、未来志向の医学・医療にとって最も大切なことだと考えています。

総　務　会　議　事　録

第１回岩手郡医師会総務会

日　時：平成22年４月７日㈬
19：00～20：00

出席者：及川忠人、篠村達雅、久保谷康夫、高橋邦尚、栃内秀彦、紺野敏昭

場　所：奥羽キリスト教センター
㈶みちのく愛隣協会事務室

報告事項及び協議事項

(1)　平成22年度岩手郡医師会事業計画について
(2)　平成22年度岩手郡医師会活動方針（案）について
(3)　日本医師会代議員会結果について
(4)　岩手県医師会各種委員会・部会委員について
(5)　岩手郡医師会担当別事業計画および担当理事（案）について
(6)　平成22年度岩手郡医師会行事予定（案）について
(7)　会員の入会・退会について

第２回岩手郡医師会総務会

日　時：平成22年６月９日㈬
19：00～20：30

出席者：及川忠人、篠村達雅、久保谷康夫、高橋邦尚、栃内秀彦、紺野敏昭

場　所：奥羽キリスト教センター
㈶みちのく愛隣協会事務室

報告事項

(1)　岩手県医師連盟緊急委員会について（５月19日）
(2)　岩手県医師連盟執行委員会について（６月５日）
(3)　岩手郡医師会監事会について（５月26日）

協議事項

(1)　平成22年度第１回通常総会開催日程（案）について
(2)　岩手県医師会親睦野球大会参加について（８月22日）
(3)　ＩＴに関するアンケート用紙・書式について
(4)　新入会員・退会会員について
(5)　岩手県医師連盟岩手郡支部の協議について

■■■■ 第３回岩手郡医師会総務会 ■■■■

日　時：平成22年８月４日㈬
19：30～21：30

場　所：奥羽キリスト教センター
㈶みちのく愛隣協会事務室

出席者：及川忠人、篠村達雅、高橋邦尚、
栃内秀彦、紺野敏昭

報告事項

(1)　第22回参議院選挙結果について（７月11日）
(2)　中核病院診療応援事業実施要領等の制定について
(3)　その他
　１．新型インフルエンザ対策に係る施設等整備費補助金の希望調査について
　２．医療機関における新型インフルエンザワクチン在庫の返品について
　３．ＳＴＤ全数調査の協力のお願いについて

協議事項

(1)　第３回役員会日程（案）について（８月18日）
(2)　岩手県医師会親睦野球大会（北上市医師会担当）参加について
(3)　ＩＴアンケート結果について（48／90　匿名６）（回収率60％）
(4)　ＩＴアンケート調査表
(5)　今後の医師会活動計画等について

■■■■■■■ 役　員　会　議　事　録 ■■■■■■■

■■■■ 第１回岩手郡医師会役員会 ■■■■

日　時：平成22年４月14日㈬
19：00～

場　所：ホテルニューカリーナ
２階　シルキー

出席者：高橋牧之介、高橋　孝、及川忠人、
篠村達雅、久保谷康夫、高橋邦尚、
栃内秀彦、紺野敏昭、佐々木久夫、
森　茂雄、土井尻健一、高橋　真、
植田　修、西島康之、北上　明

報告事項

(1)　平成22年度日本医師会代議員会選挙結果について
(2)　第１回郡市医師会長会議等について（４月10日）
(3)　岩手県医師会各種委員会・部会委員会の推薦について

協議事項

(1)　平成22年度岩手郡医師会事業計画及び活動方針（案）について
(2)　岩手郡医師会担当別事業計画及び担当理事（案）について
(3)　平成22年度岩手郡医師会主要行事予定（案）について
(4)　新入会員・退会会員について

■■■■ 第２回岩手郡医師会役員会 ■■■■

日　時：平成22年６月16日㈬
19：00～

場　所：ホテルニューカリーナ
２階　シルキー

出席者：高橋牧之介、及川忠人、篠村達雅、久保谷康夫、高橋邦尚、栃内秀彦、紺野敏昭、高橋　明、森　茂雄、山口淑子、土井尻健一、高橋　真、植田　修、西島康之、北上　明

報告事項

(1)　岩手県医師連盟緊急執行委員会について（５月19日）
(2)　岩手県医師連盟執行委員会について（６月５日）
(3)　岩手郡医師会監事会報告について（５月26日）

協議事項

(1)　平成22年度第１回岩手郡医師会通常総会の開催日（案）について
(2)　各部会報告等について
(3)　第62回岩手県医師会親睦野球大会参加について（８月22日）
(4)　ＩＴに関するアンケート用紙・書式（案）について
(5)　新入会員・退会会員について
(6)　岩手県医師連盟岩手郡支部の協議について

■■■■ 第３回岩手郡医師会役員会 ■■■■

日　時：平成22年８月18日㈬
19：00～

場　所：ホテル東日本盛岡
４階　椿の間

出席者：及川忠人、篠村達雅、久保谷康夫、高橋邦尚、栃内秀彦、紺野敏昭、森　茂雄、土井尻健一、高橋　真、植田　修、西島康之、北上　明

報告事項

(1)　第22回参議院選挙結果について（７月11日）
(2)　医療機関における新型インフルエンザワクチン在庫の返品について
(3)　新しい「インフルエンザワクチン接種体制」について
(4)　日本医師会役員選挙制度等に関するアンケート調査について
(5)　その他
　(1)　スポーツ大会に付随する医師派遣要請に関する件

協議事項

(1)　第62回岩手県医師会親睦野球大会への参加について（８月22日）
(2)　ＩＴアンケート調査結果について（48／90　匿名６）（回収率60％）
(3)　ＩＴアンケート調査表
(4)　今後の医師会活動計画等について
(5)　その他
　(1)　「はちまんたい暮らしのガイドブック」発行のご案内と協賛について

監　事　会　議　事　録

第１回岩手郡医師会監事会

日　時：平成22年５月26日㈬
19：00～

場　所：ホテル東日本盛岡
４階　椿の間

出席者：西島康之、北上　明、及川忠人、篠村達雅、高橋邦尚

協議事項

(1)　平成21年度岩手郡医師会一般会計決算について
(2)　平成21年度岩手郡医師会休祭日当番医会計決算について
(3)　平成21年度岩手郡医師会特別会計決算について
(4)　平成21年度岩手郡医師会役員活動等について
　付属資料
　収支計算書総括表
　貸借対照表総括表
　財産目録

みんなの いわて医協 を
ご利用ねがいます

医療用品カタログ通販 5,000品目満載 最大89%引き

医用印刷物・医療機器・医療事務機器・衛生材料等々・保険事業・医療廃棄物処理事業（収集から各種報告書作成まで）・福利厚生事業・労働保険事務代行事業

TEL.019-626-3880
購買専用フリーダイヤル 0120-054-222
FAX.019-626-3883

URL http://www.ginga.or.jp/~isikyo/
E-mail isikyo@rose.ocn.ne.jp

いわて医師協同組合
IWATE MEDICAL COOPERATIVE ASSOCIATION
〒020-0024 盛岡市菜園二丁目8番20号 岩手県医師会館内

第62回岩手県医師会親睦野球大会報告

■日　時：平成22年８月22日(日)
■場　所：北上市江釣子野球場、ほか

今大会は北上市医師会の担当で北上市に於いて８月22日に開催されました。練習は２回企画しましたが１回目は豪雨にて中止。２回目は猛暑となり、熱中症を心配された為か参加者は３名（北上､久喜､植田）でした。２時間の練習予定でしたがやはり暑く、軽い頭痛が出現し、不安を残しつつも１時間で早々に切り上げました。

大会前日は北上市に宿泊し、作戦会議を開きましたが、例年の如く選手数はぎりぎりの状態で山口淑子先生にも選手登録させていただいて、まさに総力戦で挑む事となりました。

今大会から試合方法が変更となりＡＢ２つのブロックに分かれ、ブロックごとに優勝を決めます。Ａはベテラン中高年チーム、Ｂはフレッシュ若手チームとなり、岩手郡は迷い無くＡブロックへ。また第２の変更点は各ブロックで、予選３チームがリーグ戦を行い１位のみが決勝リーグへ進み戦うことになりました。そのため必ず２試合戦わなくてはならず、酷暑の中、皆怪我なく無事に帰宅出来る事を祈るのみでした。

第１試合は北上医師会と対戦。先発メンバーは１番サード　北上　明、２番センター　植田　修、３番ピッチャー　久喜　寛之、４番ファースト　久保谷　康夫、５番ショート　立本　仁、６番セカンド　嶋信、７番キャッチャー　高橋　真、８番レフト　金井　猛、９番ライト　上原　充郎の９選手で、開始されました。我がチームの精鋭達は平均年齢55歳、ちなみに北上は45.5歳、花巻51.5歳でした。

１回より北上の猛攻が始まり、久喜先生の好投むなしく、途中北上先生に変わり抑えに頑張って頂きましたが、北上の地の利を活かした攻撃に後ろも守りきれず13対０の２回コールド負け。猛暑の中、過酷なポジション捕手の高橋　真先生本当にお疲れ様でした。

汗も引かぬ間に第２試合となり花巻医師会と対戦。投手は栃内先生にお願いしました。１回表、コントロール良く、なんと０点に抑えていただき、１回裏　嶋先生のヒットもあり、４点先取しました。これは勝てるのではと油断した私がいけなかったのか、２回表５点を取られ５対４の逆転負けとなりました。途中、交代で及川会長も

出場され、まさに全員参加の戦いでした。

Ａブロックの優勝は北上医師会、準優勝は二戸医師会、３位は釜石医師会でした。

最高齢チームながら暑さの中戦い続けた先生方、有難うございました。来年は皆様の多数のご参加を期待したいと思います。お疲れ様でした。

（文責　植田　修）

Ａブロック

優　勝	北上医師会
準優勝	二戸医師会野球団
第３位	釜石医師会

Ｂブロック

優　勝	久慈医師会
準優勝	岩手県立中央病院Ａ
第３位	岩手医科大学医師会Ｄ（混合）
	一関市医師会ドリームチーム

北上医師会

1	2	3	4	5	6	7	8	9
北上医師会	花巻市医師会Ｂ	岩手郡医師会	紫波郡医師会	盛岡市医師会Ａ	釜石医師会	花巻市医師会Ａ	二戸医師会野球団	盛岡市医師会Ｂ

久慈医師会

10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
岩手県立中央病院Ａ	気仙医師会	岩手医科大学医師会Ａ（内科）	岩手医科大学医師会Ｄ（混合）	奥州市医師会	遠野ベアーズ	一関市医師会ドリームチーム	宮古医師会	岩手医科大学医師会Ｂ（外科）	岩手医科大学医師会Ｃ（整形外科）	岩手県立中央病院Ｂ	久慈医師会

岩手県医師会だより

“いわて医報も読みましょう”―岩手県医師会活動報告

岩手県医師会常任理事　山口　淑子

岩手県医師会常任理事にご推挙いただいてからあっという間に６ヶ月を経過しました。やっと自分のやるべきことがわかってきた今日この頃です。岩手郡医師会理事では、最初は学校保健を上原充郎先生のご指導でお手伝いをしていました。また広報では成島勝之助先生（現盛岡市医師会）の足をひっぱりながらやっていました。３期目にしてやっと歩き始めたと言う時に、県医師会のお仕事をするようにということでお引き受けはしたものの、小児科医の関係することが多く戸惑いました。私の担当は学校保健です。今回の報告は私の６ヶ月間にやってきたこと、出席した会議等をお話しすることにします。まず定例会は毎月２回の常任理事会です。会長、副会長、総務そして各担当常任理事の２週間の活動、出席会議等の報告と協議をします。また２ヶ月に１回の理事会、郡市医師会長協議会では２ヶ月間の活動報告をします。学校医部会打合会、幹事会を開催します。対外的には岩手県学校保健会副会長、岩手県教育委員会学校保健技師、岩手県予防医学協会学校保健専門委員会委員等です。岩手県教育委員会栄養職員研修会、養護教諭研修会の講師、岩手県立療育センター整備検討委員会障がい児部門専門委員、岩手県感染症対策委員、岩手県家庭・地域教育力向上支援委員会委員、岩手県小児慢性特定疾患対策協議会委員等々、今まとめてみてちょっと驚いています。このほか小児救急電話相談事業の事例検討会に月１回出席、岩手県予防医学協会先天性代謝異常検査等専門委員会、岩手型母子健康手帳作成業務事業検討会、何か忘れているかもしれませんが小児科関連委員会というのはなんと多いか・・でも全て小児科医が関係しなくてはと考えがんばっています。東北学校保健・学校医大会に、男女共同参画フォーラムにも出席してきました。岩手県と岩手県医師会との協議会では「幼少児へのワクチン接種への公費助成について」のお願いをしました。学校保健担当、小児科医として関わらなければならない事業、委員会等に力を入れていきたいと思います。今回は私のやっていることばかりを書きましたが、次回からは他の部門の活動もご報告できればと思います。でも「いわて医報」を読んでいただけると詳しいですよ。

10月１日からインフルエンザワクチン接種がスタートしましたが、時すでにインフルエンザの流行が滝沢村ではじまってしまいました。今回はA香港型ですが、昨年の新型インフルエンザのような大きな蔓延にならないよう、足並みそろえてワクチン接種等頑張りましょう。

各　種　行　事　報　告

「インフルエンザワクチン接種体制」に関する説明概略

■日　時：平成22年８月25日(水)　18：30～
■場　所：八幡平市役所　３階大会議室

A．これまでの経緯

①新型ワクチンと季節性ワクチンとの一本化が行われ、３価のワクチンの中に新型（A/H1N1）が含まれました。
②10月１日から、この新しいワクチン接種が開始されます。
③それに向けて「改正予防接種法」の制定を進めていたが、６月16日国会閉会となり現在継続審議となっていて、この法律の成立見込み及び成立時期は全く不明です。
④その為に臨時措置として、10月１日から「改正予防接種法」の成立までの間に「暫定的な接種体制」を行うことになりました。

B．接種体制の主な差異

C．今後の対応について

①８月７日　郡市医師会長協議会にて概要の説明
②８月９日　各市町村担当者を集めて岩手県から各市町村への伝達説明会
③８月中に接種医療機関の名称報告を岩手県医師会へ行うことが必要であります。
④その後委託契約の締結が岩手県医師会、東北厚生局、国（厚労省）と為されます。
⑤10月１日　ワクチン接種開始

D．接種料金の設定について

①国の基準額がすでに低所得者への補助額として決定しているようで、さらにその補助額も目安となるので、岩手郡医師会管内の市町村におかれましては、なるべく統一した料金の設定を是非ともお願いしたいと思います。
出来れば、各町村毎の集合契約として、一括してその料金設定を行う方向でご了解を得ることが出来ればと考えております。
②ちなみに国の補助基準額は１回目3,600円、２回目2,550円、予診のみの場合には1,790円が低所得者への補助額であることから、接種料金の基準額を3,600円前後に設定して頂きたいことと、出来れば各町村毎の65歳以上の高齢者の個人負担を同じ設定に出来れば、公平性、地域性の課題が解消されると思い是非ともご検討をお願いしたいと考えております。

（文責　岩手郡医師会）

雫石町総合防災訓練

■日　時：平成22年９月５日(日)
■場　所：雫石町役場庁舎
　　雫石町総合運動公園

１．目　的

この訓練は大雨災害並びに地震災害を複合的に想定し、避難誘導や救出救護、水防

工法、火災防御等を組織的かつ効率的に行うため、消防関係機関と住民ボランティアが一体となって実践的な訓練を実施するとともに、併せて地域住民の防災意識の高揚を図ることを目的とする。

２．主催：雫石町
　　共催：雫石町消防団
　　訓練参加機関：岩手郡医師会等24機関
　　協力：岩手県防災保安協会等６機関

３．訓練参加人員：756人

○久保谷先生、篠村（五）先生がトリアージを実施した。秋山先生、篠村（達）が参観。

○訓練終了後、行政、消防、医師会、合同の懇親会を開いた。出席者は雫石町長、副町長、教育長、役場職員５名、消防関係者６名、医師会より根木、上原、秋山、篠村（五）、篠村（達）の各先生、合計19名でした。種々の意見が、それぞれの立場より出され有意義な会議でした。

（文責　篠村　達雅）

雫石町民救急蘇生法講習会

■日　時：平成22年９月16日㈭　14：00～
■場　所：雫石町中央公民館

及川会長の主催者としての挨拶、共催者の中屋敷雫石町長の挨拶に続き、講演に入った。

○『救急蘇生法の基本と実践について』講師は岩手医科大学救急センターの秋冨慎司先生。非常にわかりやすく最新情報を講義していただいた。

○『実技指導』指導者は秋冨先生、栃内先生、及川先生、篠村の４名。高橋（孝）先生にも参観していただいた。参加者は30名と少なかったが中味の濃いものとなった。

（文責　篠村　達雅）

TOPICS

新規会員紹介

国保葛巻病院に赴任して

国保葛巻病院長　山本　雅彦

今年４月より、国保葛巻病院に赴任いたしました山本雅彦（やまもとまさひこ）と申します、どうかよろしくお願い申し上げます。

私の出身は東京で、専門は神経内科、内科でしたが、最近は一般内科を中心に、医療過疎地における地域医療に従事させていただいております。前任地は北海道で２カ所計６年あまり、医療過疎地における地域医療に従事してきました。葛巻にきてはや５カ月がたとうとしていますが、高齢者が多く、地域の医療機関が限られており、最後まで看取ることが多い、また重症、或いは、より高度な医療が必要な場合、近くの都市の大きな病院に救急搬送しなければならない等、類似点が多いです。ただ葛巻の町民は北海道と比べて、とても静かな印象をもっていますが、それに甘えず、できるだけ町民の視点に立って医療を進めていきたく存じます。

ごあいさつ

栃内第二病院　久喜　寛之

このたび、岩手医科大学神経内科・老年科医局の御高配により、本年４月から栃内第二病院に赴任しています。

３月までは県立久慈病院に勤務していまして、昨年に生まれた長女の育児と開業の予定でその準備のため参りました。

妻が１月から同大学補綴科で勤務を再開したため単身赴任となり、こちらに来てからは娘の食事、入浴、送迎等の世話でやや忙しい毎日ですが、家族一緒に過ごせるようになりました。

開業は私の父と妻の出身地である釜石市を考えていまして、そのうちに県立釜石病院に転勤する予定となっています。

これから、いろいろと御世話いただくこともあるかと思いますが、宜しくお願い致します。

平成22年度岩手郡医師会社会保険医療担当者研修会報告

平成22年度の岩手郡医師会社会保険医療担当者研修会が７月23日（金）の夕方、県医師会舘4階大ホールにて開催されました。恒例の会そのものの位置づけが本年度から変更されて、岩手郡医師会主催による独自の研修会として開催されました。

保険担当理事の久保谷康夫先生の司会で研修会は開始され、主催者の及川忠人会長の挨拶により、研修会の主旨と東北厚生局岩手事務所から派遣された矢内隆司所長、同指導医療官の布川茂樹先生の紹介を行い、研修内容の説明に移った。

まづ最初に矢内隆司所長から「保険診療（施設基準）について」との講演がなされました。我が国の医療保険制度の概略が説明され、主として施設基準については厚生省のホームページと岩手医報の「医療だより」を参考にして欲しい旨の要望がありました。

またさらに、健康保険法に基づく指導・監査についての位置づけと概略そして日頃の保険診療における注意点を分かりやすく説明されました。またこれらの実施に際しての基準がすでに指導大綱、ならびに監査大綱が資料に掲載されており、よく読んで理解して頂きたいとの話であった。

次に布川茂樹先生から「保険診療の理解のために」という演題での講演がありました。医科個別指導指摘事項については請求事務ならびに診療にかかわる事項についての説明がなされ、加えて保険医療機関及び保健医療療養担当規則についての説明がなされた。特に処方箋の記載の注意事項、検査指示の不適切で避けて欲しい具体例、そして診療報酬請求の根拠が診療録の記載にあることを強調されていた。日常保険診療の留意点についての様々なことを懇切丁寧に噛み砕いてご説明頂いたと思う。

研修会への参加者は医療機関開設者および医師が59名、関係事務職員が105名の合計164名の多数であり、盛会裡に研修会は修了することが出来ました。ご多忙の中にもかかわらず、各医療機関より研修会への参加を頂きましたことを重ねて感謝申し上げる次第です。

（文責　及川忠人）

平成22年度岩手郡救急医療対策協議会報告

岩手郡救急医療対策協議会　会長　及川　忠人

平成22年９月24日（金）17：00より恒例の平成22年度岩手郡救急医療対策協議会が開催され、盛岡消防本部、各消防署長ならびに市町村健康福祉担当課長等が一同に会し、岩手郡医師会関係理事等７名の参加を加えて、インフルエンザワクチン接種体制について、休祭日当番医体制の実施状況について協議され、さらに盛岡地区消防本部の救急体制と平成21年度の救急活動についての報告がなされ、有意義な意見交換がなされました。

その後、岩手医大高度救命救急センター、秋冨慎司先生により「災害医療について」と題して救急医療講演会が開催されました。秋冨先生のご講演は非常に分かりやすいご自身の経験を中心として、多くの聴衆の注目をあびてとても好評でありました。地域の救急隊の職員も多数参加し、ともに救急災害の種類や規模、そして災害対応のポイントとしての３Ｔ（Triage トリアージ、Treatment治療、Transport 搬送）の重要性を指摘され、その３Ｔを遂行するためにはCSCAが必要であることを強調された。CSCAとはC：Command & Control（指揮と統制）を示し、S：Safety（安全）、C：Communication（情報伝達）、A：Assessment（評価）を覚えると緊急の時に役立つことを強調された。これらを加えて緊急時の対応としてCSCATTTと覚えるととても便利であります。

またこの概念はDMAT（災害医療派遣チーム）の教育概念にも採用され、自分の組織制度と現場地図を用いて、自分の管内で大震災後に火災等が発生した場合を想定することが大切であることを指摘された。

ご自分の体験から阪神淡路大震災での preventative death（救命し得た被災者）への対応や、JR脱線事故での緊急出動の時の現場での対応の課題等をリアルに示して、実際の災害時の対応が迅速にしかも適正に遂行される必要があることを述べられた。多くの関係者に多大な感銘を与えた講演会であり、岩手郡内各地でのこのようなご講演の必要性が高いとの意見が参加関係者から出され、有意義な学びの時になった。このことは日頃地域の安心と安全を守るための地域医療の原点でもあることが再認識され、それぞれの組織等に所属する参加者の「大災害時の心得」の基本を共有することが重要であり、さらに顔と顔のつながるそれぞれの組織の連携の重要性が指摘された。

救急医療講演会終了後に講師の秋富先生も加わり、情報交換会が開催され盛会裡に本協議会の日程を修了することが出来た。

会員の入会・退会・異動等

【入　会】

（平成22年10月１日現在）

入会月日	所属施設名	氏名	年齢	区分	備考
10月１日	県立沼宮内病院	鈴木克紀			八戸市医師会より
10月１日	東八幡平病院	泉本浩史			高槻市医師会より
10月１日	西根病院	星川浩一			岩手医大医師会より

【異　動】

（平成22年10月１日現在）

退会月日	所属施設名	氏名	異動の内容	
			異動区分	異動後の施設名
９月１日	滝沢中央病院	杉本圭士郎	退職	自宅会員に

会員数の状況

10月１日現在の会員数　93名

編集後記

ちょっと長い編集後記

県医師会報の編集委員会とやらに顔を出す機会がありました。
各医師会ともに苦労しておられるようで、予算不足を補うために企業広告をお願いしたり、タウンページの一部を会報の形にしたり、原稿を持ちまわりの責任制で依頼する等御努力が忍ばれました。最後は石川会長の「読んでもらえる会報を目標とせよ。」この言葉で終了しました。
郡医師会は4人の持ちまわり編集長ということで、今回は小生が当番だったのですが、やってみると依頼原稿もままならずお知らせ事項のみのページとなってしまいました。
今後の郡医報のあり方を考えると
・広報としての役割：人事、会議録等
　（いわゆる議事録という正式な記録は別にあるということも初めて知りました。）
・会員の意見交換
どちらかに大きく振るという割り切りが必要かと考えます。
その結果、必要な会合等の最小限の記録事項は残すにしても、いわゆる議事録は省略して項目のみと規定してしまうのも悪くないかと考えたりもしました。
普段言えない事、願い事、中央に伝えたい事々が素直に読み取れるような紙面にでもしないと「会員が読んでくれる会報」にはなりにくいのではないかというのが今回の反省です。　（文責　高橋邦尚）

岩手郡医報：No.95／2010年10月発行
発　　行：社団法人 岩手郡医師会
発行責任者：岩手郡医師会会長　及 川 忠 人
事　務　局：〒028-7303 八幡平市柏台二丁目8番2号東八幡平病院内
TEL 0195-78-2607　FAX 0195-78-2555
http://www.iwategun-med.or.jp
制　　作：社団法人 岩手郡医師会広報部